

ARIA if story

スイカ☆

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ARRIAのメール文ほい何かです

目次

A
R
I
A

i
f

S
T
O
R
Y

|

1

A R I A i f S t o r y

拝啓

最近暖かくなって来ましたね。

ここネオベネチアにも春がやって来ました。

やはり、昼間は暖かくて気持ちいいですが、朝方はやはり冷え込みます。

私は毎朝テラスでコーヒーを飲んで身体を温めています。

最近では、とある女子と一緒にお茶をするのが日課になっています。

最初は、私の誘いにしぶしぶ乗ってくれましたが、今となっては自分からゴンドラを寄せて来てくれます。

その子も、ついこの前オレンジぶらねつという会社にスカウトされたみたいです。

ついにウンディーネの一步を踏み出したのかと思うとつい嬉しくなってしまう。

そういえば、オレンジぶらねつと働いてるあの人は元気にやってるかな？

カンツオーネがとても上手くて今じゃすっかり有名になってるけど

よく転んだりする人だから少し心配です。

お茶会が終わると営業の準備に入ります。

ウチはちよつと特殊で午前にはウンディーネ業

午後からはカフェを経営してるので、予約と仕込みの確認です。

ウチのツアーは他とは少し違いゴンドラに揺られながらカフェを楽しんで頂けるようになっております。

なので、ゴンドラを揺らさないようにしないといけないので始めの頃は苦労しました。

夜になると、よく姫屋のウンディーネさんが来て下さいます。今日は最近出来た後輩を紹介してくれました、どうも姫屋の社長の娘さんだそうで、でもウンディーネさんはそんなの御構い無しに指導してくれるそうで、それを聞いて後輩ちゃんは少し嬉しそうでした。

あ、それと今日は珍しくARIAカンパニーのウンディーネさんも来てくださったんですよ。

いつも、穏やかな彼女が今日はとても嬉しそうにしてるので理由を聞くと、最近ついに社員が1人増えるそうで、その時の志望動機の話とてもよく、が私には印象的でした。

よほど嬉しかったのか、お酒のピンを4本ほど開けてましたね、私も少々お付き合いしました、こんだけ飲んでけろつとしてるのには流石に驚きました・・・

長くなってしまいましたが、お客様がが来られましたのでこれで失礼します。・・・

そう打ち込むと、送信ボタンを押してパソコンを閉じた

「さて、本日最後のお客様のためにアイスミルクでも作りましょうか」

一言呟くと、彼はいつの間にかカウンタ―席に座っているこの時期には合わないロングコートに、大きめの帽子を深くかぶったお客様に向かつていった。

これは、水の星アクーアで男性初のウンディーネとなった男性の日常の物語である。